

～次につながる 10 日間～

七飯高等学校 2 年 ^{さかた}坂田 ^{るり}留璃

2016 年 10 月 26 日から 11 月 5 日の 11 日間の中で私はかけがえのない宝物を手に入れました。その宝物は、これから一生忘れることのできない大切なものです。

【出発前日】

遠足を楽しみにしている小学生のような高揚感を感じずにはられませんでした。

【出発当日】

成田国際空港。最初は長いと思われましたがあっという間でした。ボストン空港到着。入国審査は本当に緊張しました。コンコード・カーライル高校。ホストファミリーとの対面式です。私のホストファミリーは、ホストマザーのジョイス、ホストファザーのハリー、同じ 17 歳のジェイクでした。ハグから挨拶するのはやはりアメリカだなと思いました。

【2 日目】

まだ少し暗い中、カーライル高校に初登校。校舎の大きさに驚きました。日本の文化を紹介する日本文化交流では茶道をして生徒と交流しました。お昼時にはたくさんの生徒たちに囲まれてびっくりしました。ハリーの手作り「ラザニア」を食べました。とても美味しかったです。夜はホームシックになり泣いていました。

【3 日目】

この日はラジオに挑戦でした。みんなととても楽しく喋ることができました。ドッジボールでは、日本バージョンとアメリカバージョンをしました。とても面白かったです。セーラム市では仮装している人が多く、見ているだけでワクワクしました。夜は、ホストファミリーと電車に乗ってボストンへ。ハリーとジェイクとともに買い物に行き、ハリーはジョイスにプレゼントを買っていてとても微笑ましかったです。

【4 日目】

ポットラックパーティー。中にはお米の料理もあり、日本が恋しくなった時でもありました。その後、派遣者全員によるいか踊り。とても楽しく、みんな笑顔でした。

【5日目】

この日は、一日ホストファミリーと過ごす日でした。昼は、大きな迷路のあるファームに行き、同じ訪問団の何人かとそのホストファミリーと楽しい時間を過ごしました。迷路はとっても大きくて2時間ほど迷い続けました。くたくたでした。夜にはホストファミリーの友人宅で行われたハロウィンパーティーに行きました。THE・理想の家というような家でした。この家のデザイナーはとっても陽気なお婆さんで印象に残りました。



【6日目】

オールドノースブリッジでは、鋤（すき）を捨て、銃を持った農民の話などを聞きました。一部分、イギリスの領地となっているところがあり驚きました。ロビンズハウスでは、黒人だけれど奴隷としてではなく、自分で働いていたという人の話を聞きました。聞けば聞くほどすごい人でした。ハーバード大学ではハーバード氏の銅像のつま先を触って、頭が良くなりたいと願いました。クインシーマーケットでは、名物であるロブスターとクラムチャウダーを食べました。また食べに行きたいです。家に帰ってからはジャック・オ・ランタン作りをしましたが、少し難しかったです。夜はハロウィン！七夕と似ていました。国と文化は違うけれど親近感を感じました。

ホストマザーのジョイスさんとCCHSにて

【7日目】

CCHS 内でコンコード町内に放送される TV 撮影をし、とても緊張しました。若



夕飯に素うどんを作りました

草物語の舞台となったオーチャードハウスへ。館長さんがルイーザ・メイ・オルコットに変装して若草物語の最初の部分を演じてくれました。楽しく若草物語とオルコット家について学ぶことができました。ウォールデン Pond はとてもきれいな湖で、癒されました。夕飯に素うどんを作りました。ハリーとマイクは箸を使って食べ、マザーはスパゲティを食べるようにスプーンとフォークで食べていたのに驚きました。ホストファミリーと過ごす

最後の夜はとても寂しかったです。

【8日目】

朝早くにホストファミリーの車で集合場所へ。デイビット先生が考えたアメリカの「バイバイ」と日本の「さよなら」を掛け合わせた「バヨなら」をみんなで言いました。別れを実感して泣いてしまいました。国際交流員のクリスさんともお別れで、寂しさが消えることはなくバスで泣いてしまいました。

そして、眠らない街ニューヨーク！ロックフェラーセンターでは屋上からニューヨークの街並みを見渡すことができました。タイムズスクエアは人であふれかえり、クラクションの音やパトカーの音が深夜になっても止むことはありませんでした。

【9日目】

自由の女神像は想像以上に大きかったです。自由の女神像はアメリカの独立を祝うフランスからの贈り物だそうです。その後、9.11で亡くなった方々の碑石のところに行きました。胸にこみ上げるものがありました。この日の夜はみんなで集まり交流をしました。以前、七飯町の国際交流員として働いていた男性が来て、完成度の高いボイスパーカッションを披露してくれました。とても思い出深い最後の夜でした。

【最終日】

アメリカを発つ日が来ました。アメリカに別れを告げ、15時間のフライトが始まりました。函館に帰ってきた時は心がとても温かく感じました。無事に帰ってくることができたこと、家族に会えたこと、日本だということに安心しました。久しぶりの函館はとても心地よかったです。

【最後に】

長いようで短かった10日間は「高揚感」「不安」「緊張」でいっぱいの日々でした。ですが、帰る時には、「また来たい」という気持ちで満ちていました。たくさん思い出とともに、貴重な経験をしたことがこれからの糧になることを確信しています。言葉の壁は高かったけれど、伝える方法はいくらでもあり、それはホストファミリーと過ごす中で手に入れた思い出が証明しています。とても温かく、とても優しい思い出。今回このような大変貴重な体験をすることができて本当にうれしく思っています。本当にありがとうございました。